

# 函館市生活交通協議会(函館市路面電車整備推進協議会と統合)における 地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 概要

函館市の電車事業は利用者の減少による厳しい経営状況に対処するため「函館市交通事業経営計画」を策定し、電車事業の経営の健全化、利用者の利便性の向上等の取組みを実施してきたところである。

しかし、現状においても利用者の減少が続いており、施設の改良にかかる財源確保が課題となっている。

公共交通は日常生活における市民のモビリティ(移動性)を支えるうえで重要な都市施設であることから、**地域公共交通確保維持改善事業**の活用により、施設等の改善改良を図り軌道事業の活性化を推進する。

## 生活交通ネットワーク計画の目標

○LRT整備を行うことで、**528万人(年間利用者数)**の利便性・快適性を向上させる。

(主な整備内容)

- ・利用者の利便性・安全性に配慮した車両の導入
- ・駐車場のバリアフリー化
- ・軌道等の施設改良による安全性、快適性の向上 等

## 平成27年度事業概要

○制振軌道の整備

・杉並町～柏木町間129.350mのレールの側面にゴム製のパッキン材を装着させることで、制振性を高める軌道構造に改良した。

また、同時に重軌条化も行った。

## 地域公共交通の現況

- ・函館市電(停留場数:26)
- ・JR函館線(函館駅、五稜郭駅、桔梗駅)
- ・道南いさりび鉄道(五稜郭駅)
- ・函館バス(株)(市内200路線)

## 協議会開催状況

①平成27年3月19日 平成26年度第1回函館市路面電車整備推進協議会を開催

(議題)

・函館市LRT整備計画(平成27年度実施計画)について など

②平成27年8月21日 平成27年度第2回函館市生活交通協議会を開催

(議題)

・函館市路面電車整備推進協議会との統合について など

③平成28年1月22日 平成27年度第4回函館市生活交通協議会を開催

(議題)

・函館市LRT整備計画(平成27年度実施計画)の変更について など

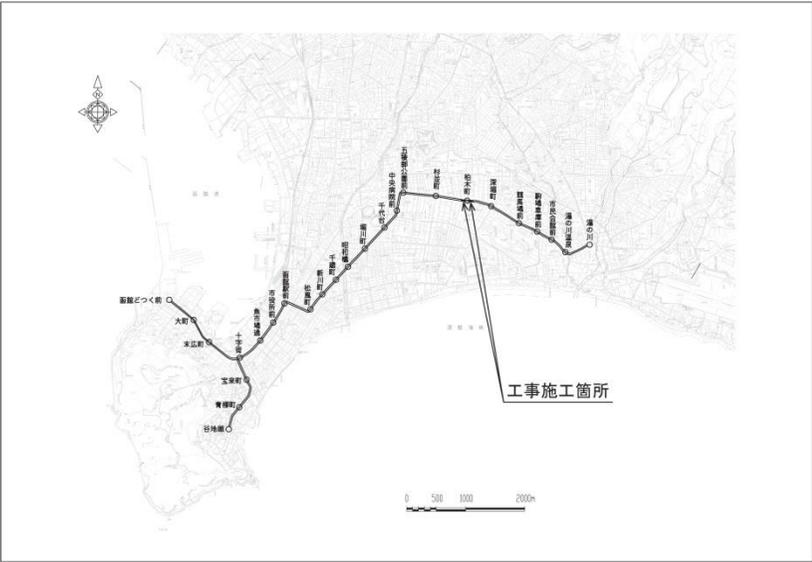
# 平成27年度事業の実施状況

## 1) プロセス、創意工夫

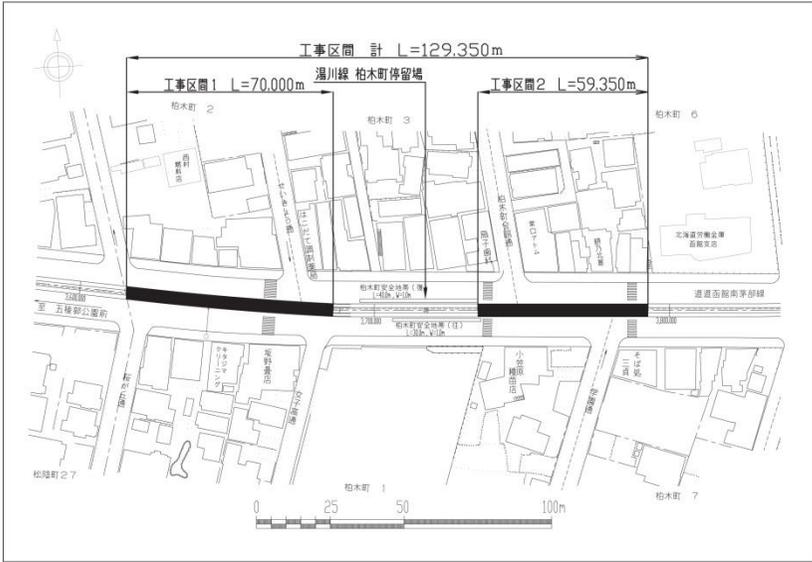
- ・平成17年度: 制振軌道の整備 延長71m
- ・平成18年度: 超低床式車両の導入 1編成
- ・平成19年度: 停留施設の整備 2箇所, 制振軌道の整備 延長150m
- ・平成20年度: 停留施設の整備 2箇所, 制振軌道の整備 延長150m
- ・平成21年度: 超低床式車両の導入 1編成, 制振軌道の整備 延長155m
- ・平成22年度: 制振軌道の整備 延長200m
- ・平成23年度: 制振軌道の整備 延長400m
- ・平成24年度: 制振軌道の整備 延長400m
- ・平成25年度: 超低床式車両の導入 1編成, 制振軌道の整備 延長100m
- ・平成26年度: 駒場町変電所の改築, 機器更新 (平成27年度まで)

## 2) 工事施工箇所

### ① 工事箇所図



### ② 工事箇所詳細図



### 3) 利用実績

輸送実績				
	乗客数		乗客数	
4月	335,063	10月	410,736	
5月	367,006	11月	342,572	
6月	328,456	12月	376,886	
7月	428,339	1月	394,619	
8月	460,937	2月	379,554	
9月	407,339	3月	368,495	
交通料金助成による乗客			677,505	
年間乗客数 5,277,507人				

### 4) 収入実績

収入実績				
	収入		収入	
4月	65,223,000	10月	69,126,102	
5月	67,501,445	11月	59,603,527	
6月	59,837,046	12月	66,107,324	
7月	74,399,676	1月	67,337,666	
8月	80,321,130	2月	66,356,028	
9月	70,772,528	3月	67,377,065	
交通料金助成による収入			69,696,180	
年間収入 883,658,717円				

### 5) 事業実施の適切性

・当初200mの施工計画であったが、以下の理由により一部区間の施工を中止した。

- ① 2つの安全地帯に挟まれた区間について、コンクリート舗装の取壊し工程の際、日中時間帯に施工を行うために必要な作業スペースが現場で確保できないことが判明し、また、夜間の施工も検討したが大きな衝撃音が発生するため、隣接する沿線住民の理解が得られなかったことなどから施工が困難になった。
- ② 発注および発注後の気象条件等により工事遅延となったが、積雪期の施工は、コンクリート舗装の品質に悪影響を及ぼすため、1月以降の施工が困難であると判断し、一部区間の年度内の工事施工が完了できる見込がなくなった。

### 6) 目標・効果達成状況

制振軌道の整備により、工事施工区間の年間利用者217万人の利便性、安全性の向上が図れた。

### 7) 事業の今後の改善点

今回の一部施工中止を踏まえ、施工方法、手順等は、現場環境に配慮し、慎重に設計する。また発注時期も配慮する。

## 8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄

## 事業実施と生活交通ネットワーク計画との関連について

平成29年1月23日

協議会名:	函館市生活交通協議会
評価対象事業名:	利用環境改善促進等事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>函館市は、北海道渡島半島の南東部に位置し、東・南・北の三方を太平洋・津軽海峡に囲まれ、面積は677.95平方km、人口は約27万人で、人口減少と高齢化率の上昇が続いている。</p> <p>そのような中、電車事業は利用者の減少による厳しい経営状況に対処するため「函館市交通事業経営計画」を策定し、経営の健全化、利用者の利便性向上等の取り組みを実施してきたところである。</p> <p>しかし、現状においても利用者の減少が続いており、施設の改良にかかる財源確保が課題となっている。</p> <p>函館市では、平成25年3月に内閣総理大臣の認定を受けた「函館市中心市街地活性化基本計画」において、市電沿線の函館駅前から五稜郭公園前の区間を中心市街地エリアと位置づけ、市民および観光客の回遊増となる施策を打ち出している。その検証のための目標値の1つとしてエリア内での市電乗降客数の増加を掲げており、まちの賑わいのためのツールとして市電を活用することとしているが、公共交通は、日常生活における市民のモビリティ(移動性)を支えるうえでも重要な都市施設であることから、地域公共交通確保維持改善事業の活用により、施設等の改善改良を図り電車事業の活性化を推進しているところである。</p>

